

「具合はどうですか？」。2月のある午前、

小樽の市営住宅を訪れたケアオフィス優（市内入船3）のヘルパー

小山内綾さんは、ベッドの上の男性利用者

（84）に声をかけた。

妻（83）と2人暮らしの男性は数年前から寝

たきりで、要介護5。同月から試行が始まった24時間型の巡回介護

・看護サービスを受け始めた。

小山内さんは手早く男性の食事の準備、お

むつ交換などを行い、20分ほどで「あとでまた来るから」と、次の巡回先へ向かった。

男性の妻は腰を患い、認知症も始めている。男性の具合が悪くなっても、病院に連れて行くのは難しく、

## 中松市政2年目の課題

小樽市新年度予算案から

3

「救急車をタクシー代わりにするなって怒られたこともあるの。いつでも呼べるのは助かるわ」と笑顔を見せる。

### 24時間巡回を開始

24時間巡回サービスは、新年度から介護保険サービスに導入される。ヘルパーや看護師が1日に複数回訪問するほか、利用者の呼び出しに24時間対応。在宅介護の利便性が向上し、要介護者の「見守り」も期待される。市介護保険課は「施設重視をやめ、在宅介護の支援に重点を置く



24時間巡回サービスでの生活介助の一幕。新たなサービスにも課題は多い

これからの介護保険の象徴といえるサービスだ」と説明する。市は今後3年間、特別養護老人ホーム（特養）やグループホーム（GH）などの入所施設の開設をやめる。

1071円上がる介護保険料を、さらに値上げせざるを得ない。負担減のための「在宅シフト」というわけだ。

### 介助時間減少危く

一方、1月に発表さ

市内には入所施設がすでに多数あり、定員合計は特養が460

床、GHが745床、介護療養病床が475床

など。これにかかる給付費は介護療養病床の

1床あたり月36万円を筆頭に、いずれも在宅

サービスの数倍以上。入所施設を増やせば、

新年度から基準月額が

24時間巡回サービスも「思ったより高い」と受け止められた。年金収入に比べて負担額が大きく、介護関係者からは「通所サービスを削らないと生活できない人も出る。結果として外出機会を奪うことになりかねない」という懸念の声もある。

1月末現在の小樽市の高齢化率（人口のうち65歳以上が占める割合）は32・0%、55歳

以上の割合をみると49・7%。高齢化は今後一層、進展する。

その中で、高齢者の負担に見合ったサービスをどう設計し、「安心な生活」をどう提供するのかが、国の制度の

枠はあるにせよ、その運用は市のさじ加減にかかっている。

### 高齢化

## 「安心な生活」どう提供

かかっている。

# 訪問介護 24時間対応します

小樽市は1日、24時間対応で高齢者の訪問介護・看護を行う「定期巡回・随時対応サービス」のモデル事業をスタートした。4月以降は介護保険事業の新サービスとして継続する。1日現在のサービス利用者数は想定より少ない6人にとどまっており、市から委託を受けた事業所は引き続き利用者を募集している。

(米林千晴)

市からモデル事業を委託されたのは、入船3の「ケア・オフイス優」(二丹田早稲子代表)。訪問看護や訪問介護など、在宅介

護支援を専門に手がけている。定期巡回・随時対応サービスは、ヘルパーや看護師が1日に複数回訪問し、食事や排せつなどの生活介助や医療行為を行うほか、利用者の呼び出しに24時間いつでも対応する。従来の訪問介護は1日1回、1時間半ほどかけて1日に必要な介助をまとめて行うが、新しいサービスは20分程度のケアを1日に複数回受けられるので、本来の生活リズムを変えずに済み、何度利用しても定額なのが特徴だ。

「優」では、24時間対応のため、利用者宅に携帯型端末を置くことにした。利用者はボタン一つで施設の職員に電話がつながり、必要に応じたサービスを受けることが可能。二丹田代表は「排せつを我慢するため、夕方から水分を控える高齢者もいる。脱水症状などにつながり、危ないのだが、新サービスはこうした不便、負担を解消できる」と話す。

モデル事業の対象者は要介護認定者で、20人程度の利用を想定しており、まだ空きがある。3月末までは収入に合わせて月額2千〜1万円

## 市のモデル事業始まる



### 利用呼び掛け

の利用料が必要。月の途中からの利用は日割り計算する。4月以降は介護保険事業のサービスとなり、要介護度や訪問看護の有無で月額6670〜3万4500円(自己負担分)となる。

モデル事業後もサービスを提供する「優」は、ヘルパーと看護師を計5人程度募集している。雇用形態は正社員でもパートでも可。問い合わせ、利用申し込みは0134・22・3951へ。

利用者宅に置く携帯型端末を手に、サービス利用

を呼びかける二丹田代表